

⑭ 「亦不是孝」の四字がこゝに見えるのは前文との関係が附かないやうに思はれる。或は孝を説く第二願中の文字が誤りてこゝに記されてゐるのでは無からうか。

⑮ 前記⑩参照

⑯ 宛は窓と通じ用ひらるゝ字であるが、窓は「枉」の義にも用ひられ（廣韻）、また「恚」即ち「怨」の義にも用ひられる（集韻）が、次の103行に「窓屈」といふ熟字も見えるから、こゝにも「枉」の義に用ひられたものかと思ふ。

⑰ 本文には「天」と書かれてあるが、文章の續き方から見ると無論「莫」「无」の義を示す文字で無ければならぬ。

⑱ 「加祿」は解釋し難き文字である。祿は前文との関係を辿れば「媒」の誤かと思ふが、それにしても意味明かではない。

⑲ 「受」字の上に必ず「莫」を脱したものと考へる。

⑳ Peake, idid, p. 185. 因みに三威蒙度讚に附した尊經には、牟世法王とか、牟世法王經とかいふ文字が見える。牟世はモ一ゼに相違無いから、牟世法王經といふのは多分十誡なども記されてゐたものであらう。

㉑ 敦煌石室遺書に収めた波斯教殘經を指す。

㉒ 前者は F. W. K. Müller. Sogdische Text I. 後者は同氏の Handschriften-Reste in Estrangelo-Schrift aus Turfan. に據る。

㉓ 下部讚といふのは Stein 氏が敦煌の佛洞から獲た漢文に譯した摩尼教の禮讚文を幾つも集録したもので、同氏蒐集漢文書中²⁶⁵⁹の番號を有し、巻尾に下(?)部讚一卷と起さるゝものである。此等禮讚の偈文中には其の意義を漢譯しないで、たゞ音譯だけを漢字で施したのもあり、數少き漢文摩尼經典中の一つとして甚だ重要なものなることは言ふまでもない。矢吹博士は大英博物館で之を寫し、大正六年第三回大藏會陳列目錄下の末尾に於て其の讚文の項目を紹介してゐられるが、實は偈讚の目は尙更に多くを掲ぐべきを、惜氣も無く切り捨てゝしまつたものである。

(内藤博士還曆祝賀支那學論叢所收、大正十五年五月)